

住民寄り添い型支援を目指して

【まち・コミュニケーションについて】

当団体は、阪神・淡路大震災から16年間、地区の8割が焼失する被害を受けた神戸市長田区御蔵地区に事務所を構え、常駐し、住民の常に寄り添い、よそ者の力と繋げながら、復興まちづくりに取り組んできました。その後も、台湾集集大地震（1999年）の被災地復興まちづくり交流を通じた古民家移築や、台風23号水害（2004年）の被災地兵庫県豊岡市出石町の市民農園再建を通じたまちづくりに現在でも継続的に関わっています。

【東日本大震災での活動への経緯】

阪神・淡路大震災時には、東日本大震災被災地からも、御蔵地区に来てくださり、共に復興まちづくりに取り組んだ方もおられます。毎年欠かさず、震災記念日には、慰霊の法要に来神してくださっています。また、1996年の夏祭りには、人が居なくなった長田区に、少しの間だけでも人に集ってもらうため、仙台の七夕飾りを運んで、共に汗を流して設置して下さりまちづくりを盛り上げて下さいました。

【現地活動場所・日時】

3月22日(1名)：知り合いの安否確認とまち・コミ応援団からの気持ち（救援物資・義捐金）を届けるため宮城県南東部（山元町・亘理町）を訪問。

4月2日(2名)：亘理町の知り合いから、現地でのニーズ聞き取りとこちらの力のマッチング

4月11日～16日(5名)：亘理町にて、海蔵禅寺の本堂、境内、墓地の瓦礫撤去。

<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-1453.html>

5月2日～8日(20名)：亘理町にて、海蔵禅寺と長徳寺の墓地の瓦礫撤去。

<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-1492.html>

【活動地域からコメント】

海蔵禅寺檀家護持会会長：「寺のすべてが流されてしまい、地域で亡くなった42人を埋葬する場所もなかった。よみがえりつつある寺の姿を見れば、住民も『何かできるかも』と次へのステップが見えてくる。神戸のみなさんの力をもらって、復興につなげたい。」

長徳寺檀家護持会副会長：「(護持会で)何とかしないといけないが、会員(周辺住民)は自身の家の片付けや避難生活等で、墓地の整理まで、手が回らず、ご住職やそのご家族が墓地の掃除をされているが、(力を出したくても)どうしようもない。(申し訳ない)と思っていました。そこで、今回皆様が来て作業して下さり、本当に大変助かりました。」

【活動目的と今後の方針】

現地の復興の様子を寄り添いながら、16年間で知り合ったまちづくりの人的資源を活かす方法と時期の企画調整事務局の一端を担い復興の支援をしたい。

住民に寄り添い、彼らのペースで、当団体の人的資源を繋ぐことで、住民自身が、「自分たちでもできる!」と思う瞬間を多く作る。

外部支援者から当団体へは、日本の方々からは、ボランティア参加希望。シアトルの日系日本人からは、シアトル 神戸 東北の支援の模索、台湾のパートナーからは、台湾への子供達の夏期体験交流の提案とその調整といった要望が集まっている。